

# 第6次江南市総合計画市民会議 議事要旨 (第4回 第1分科会(まちづくり分野・しごとづくり分野))

日 時 平成28年12月21日(水) 13:30~15:50

会 場 江南市役所 第3委員会室

出席者 出席委員9名(1名欠席)

## ■委員

《会長》	加藤 幸治	江南市都市計画審議会委員
《副会長》	宮川 秀男	公募市民
	中村 建岳	公募市民
	粕山 光正	公募市民
	川田 圭一	江南市歴史ガイドの会会長
	前田 哲郎	布袋地区鉄道高架・街づくり協議会幹事
	野田 憲一	江南市総合計画策定部会(まちづくり分野) 部会長
(欠席)	石川 晶崇	江南市総合計画策定部会(まちづくり分野) 副部会長
	大岩 直文	江南市総合計画策定部会(しごとづくり分野) 部会長
	石坂 育己	江南市総合計画策定部会(しごとづくり分野) 副部会長

## ■傍聴者

1名

## ◆議題

### 議題

(1) 基本計画(分野別計画)について

## ◆会議結果

### 1 開会

事務局より挨拶。

### 2 市民会議

#### 2.1 議題

(1) 基本計画(分野別計画)について

##### ①分野I-柱6 下水道について

(下水道課) ~ 分野I-柱6下水道について下水道課長より説明 ~

(会 長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。

(委 員) 汚水処理施設の今後10年程度での概成とあるが、「概成」はなじみのない言葉だ。辞書を引くと「ほぼできあがる」とあり、達成なのか完成なのかイメージしづらい。

(下水道課) 概成という言葉は国が用いているため、引用しています。下水道と合併処理浄化槽とを合わせた整備率が、100%ではありませんがそれに近いことを指しています。

(委 員) 現状と課題に「下水道普及率は29.3%」とあるが、いつ時点か分からない。平成27年度時

点だと思うので、それを追加した方が良い。

(下水道課) 修正します。

(委員) 現状と課題に「般若川の BOD 値は平均 10.4mg/L」とあるが、青木川の数値はどの程度なのか。

(下水道課) 平均 5mg/L です。

(委員) BOD について説明いただきたい。

(下水道課) 生物化学的酸素要求量のことであり、数値が高いほど川が汚れていることを示しています。

5mg/L 以下でフナが生息できると言われています。

(委員) 個別目標②の「下水道普及率」について、下水道整備状況のグラフを見ると平成 23 年度から平成 27 年度までの 4 年で約 7% の上昇に留まっているが、基準値 29.3% (H27) から目標値 56.6% (H35) までは 8 年で約 27% の上昇を見込んでいる。実績から倍程度の高い目標値を見込んでいるが、その根拠を教えてください。

(下水道課) 10 年概成をめざし、逆算しての目標設定をしています。本計画の中に「コスト縮減を図りつつ費用対効果の高い手法により、下水道の整備を進めていく」とあるように、複数年発注することでより大きいロットでの工事が可能となり、年間の整備率を上げられるため、達成可能だと考えています。

(委員) 過去の実績のグラフだけ見ると厳しいように思ってしまう。

(下水道課) 今年度は 53ha の整備をめざした工事を進めており、過去の年間 27ha に比べ数値を上げているため、困難ではないと思います。

(委員) 整備面積の増加に伴い、受益者負担金や下水道使用料への影響はあるのか。

(下水道課) 下水道整備費は地方債、国庫支出金、税金等から賄われています。受益者負担金はその一部について整備区域内に含まれた市民等に一定額を負担いただくもので、一旦納めればその後の整備面積の増加による影響はありません。下水道使用料については、整備自体が進んでも、区域内での未接続率が高ければ、その分の使用料収入は見込めないため、下水道事業の経営に支障をきたす可能性があります。健全な下水道事業の経営を進めていくためには、ただ単に整備面積を増やすだけではなく、接続率向上に努めなければなりません。

(委員) 受益者負担金はいくらか。

(下水道課) 市街化区域で 300 円/m<sup>2</sup>です。

(委員) 受益者負担金は、毎月の下水道使用料に含まれるのか。

(下水道課) 使用料とは別に、整備した翌年度に一括払い、3 年で 12 回払いしていただくかです。

(会長) 先ほどの BOD について、浄化槽の排水基準はどの程度なのか。

(下水道課) 合併処理浄化槽の排水基準は 20mg/L です。

(委員) 全体目標の「下水道や浄化槽が整備され、快適で衛生的な生活を送っていると感じる市民の割合」について、目標値の算出根拠を教えてください。

(下水道課) 過去 10 年で、43.5% (H18) から 46.7% (H28) と 3.2% の上昇でした。今回はそれに準じ、3.3% の上昇とし、50% としています。

(委員) 下水道普及率が平成 39 年度に 62.4% まで上がるのなら、市民満足度はもっと高くなると思う。普及率の向上を加味してはどうか。

(下水道課) 市街化区域全てと市街化調整区域の一部を整備していきますが、調整区域は浄化槽が普及しており、すでに満足している市民もいると想定し、数値を算出しています。

(委員) 下水道接続に対する啓発活動について、接続率と川の汚れとの関係性を示してはどうか。

(下水道課) 現状、整備時の説明会、市民まつりや消費生活展といったイベント時での PR、愛知県主催の学校での学習会といった啓発活動があります。川の汚れは上流からの水も関係するため、市内の接続率向上と川の汚れは単純に結びついておらず、関係性を示すのは難しいです。江南市単独ではなく、広域的な啓発活動も必要です。

(委員) すでに広域的に取り組んでいるのか。

(下水道課) 下水道処理場である五条川右岸浄化センターで下水道の仕組みの見学会を行っています。  
(委員) 愛知県主催の学校での学習会だが、開催実績を教えてください。  
(下水道課) 布袋小学校と藤里小学校で計5回実施されています。  
(委員) 愛知県主催だが、他の学校でもぜひ取り組んでもらいたい。  
(会長) 老朽化している下水道施設の更新は行っているのか。  
(下水道課) 管きよの耐用年数は40～50年であり、本市は平成5年度より事業着手し平成14年度から供用開始したため、まだ更新時期を迎えておりません。時期が来たら、計画していきます。

## ②分野Ⅰ－柱4 道路について

(土木課) ～ 分野Ⅰ－柱4道路について土木課長より説明 ～  
(会長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。  
(委員) ここでは、道路の補修や維持などの話か。道路の新設は市にあまり関係がないのか。  
(土木課) この柱の対象は、現行道路の整備・維持管理を想定しています。都市計画道路などの新設はまちづくり課の所管です。  
(委員) 自転車道路やカラーレーンの整備は対象なのか。  
(土木課) 自転車道路やカラー舗装整備に伴う道路補修などについては連携していますが、防災安全課の所管です。  
(委員) 個別目標②の「舗装整備率」にそれらの整備率は入っているのか。  
(土木課) 入っていません。  
(委員) 全体目標の「道路が整備され、人や車が安全に通行していると感じる市民の割合」の目標値の根拠を教えてください。  
(土木課) 現状が27.7%と低いので、あくまで目標として50.0% (H39) を設定しました。  
(委員) 基準値が27.7%なら残りの約70%は「安全に通行していると感じない」ということとなる。それについて内容を分析しているのか。  
(事務局) 他自治体や近所と比較して、満足していないと感じる人も含まれるのではないかと考えています。  
(委員) 市内の道路は整備されていると思うので、検証が必要だ。  
(委員) 個別目標の指標は4つあるが、基準値がH28.5.31 現在、H28.3.31 現在、H28.4.1 現在などバラバラである。表現は統一したほうが良いのではないか。  
(土木課) 平成27年度の集計なので、統一を検討します。  
(委員) 個別目標①の「道路占用料等の収納率」について、前払いだと思うが、基準値はなぜ100%でなく、99.9%なのか。  
(土木課) 基準値における未納の案件は、前払いではありません。占用料については占用物の占用期間が複数年に渡る場合は、年度毎に占用料を徴収しているため、平成27年度は未払いの物件があったということです。  
(委員) 文章とグラフに平成と西暦の表記が混在している。統一してはどうか。  
(事務局) 他分科会との兼ね合いもありますが、今後統一していきたいと考えています。

## ③分野Ⅰ－柱7 治水について

(事務局) ～ 分野Ⅰ－柱7治水について土木課長より説明 ～  
(会長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。  
(委員) 「10年後のすがた」に「市民の皆様」とある。皆様は不要ではないか。  
(事務局) 削除します。  
(委員) 平成19年度に区長を任されており、その際、新川流域での水害対策計画の話聞いたことがある。市民協働事業に記載のある「特定都市河川浸水被害対策法」と関連があるのか。

- (土木課) 関連するものです。平成 19 年に特定都市河川浸水被害対策法に基づき新川流域水害対策計画を策定しています。
- (委員) 平成 12 年の東海豪雨の際、甚大な浸水被害を受けたため、愛知県と江南市を含む新川流域の自治体が共同で策定したものである。
- (委員) 計画期間が 30 年だったと思う。詳細を教えてください。
- (委員) 県と流域自治体のそれぞれに実施項目があり、主に、県は河川の整備、流域自治体は雨水貯留施設を設置する計画となっている。平成 19 年時点で 30 年後の整備計画が記載されている。
- (土木課) 市では第 3 次江南市総合治水計画を策定しており、整合性を取っています。
- (委員) 江南市は地震などの災害が少なく住みやすいところだが、唯一道路の冠水が心配のため、治水対策はしっかりやってほしい。対策には多額の費用を要するのか。
- (土木課) 側溝の整備面積を大きくすれば状態が良くなるわけではなく、青木川や般若川など河川そのものの容量に限界があるため、ある程度の量の雨が降れば河川は溢れてしまいます。その対策として、第 3 次江南市総合治水計画に基づき小中学校のグラウンドなどに雨水貯留槽を作っていきます。ただし、多額の財源が必要のため、3 年間で 1 か所設置できればと考えています。
- (委員) 下流にも影響するため対策は必要だ。今後も対策に努めていただきたい。
- (委員) 冠水するような所は数としてどのくらいあるのか。
- (土木課) 市内に点在しており、単純に数を算出できるものではありません。
- (委員) 市ホームページに浸水被害のハザードマップが載っており、それを見れば場所は分かる。数え方は難しいと思う。
- (委員) 市民が雨水貯留浸透施設の設定などの治水対策を行った場合、効果はどのくらいか。
- (土木課) 対策による効果は数的に測れるものではありません。市が主体として、あくまで公共施設の治水対策を進めていくのと同時に各家庭でも雨水貯留浸透施設を設置するなどの対策により、少しでも河川負担の軽減に努めてもらう必要があります。
- (委員) 雨水貯留浸透施設の容量はどのくらいか。
- (土木課) 雨水貯留槽や雨水浸透枡などがあり、種類によって様々です。
- (委員) 浸透トレンチとはどういったものか。
- (土木課) 排水管自体に浸透性があり、雨水が地中に流れていくものです。
- (委員) 透水性舗装は道路に使用できないのか。
- (土木課) 透水性舗装は耐久性に不安があるため、市内で歩道の施工箇所はありますが、車道はありません。
- (会長) 各家庭での雨水貯留浸透施設の設定が増えることが望ましい。
- (土木課) 設置は強制できませんが、設置に対しての補助制度があるため、PR に努めています。
- (委員) 県河川の整備に優先順位はあるのか。
- (土木課) 般若川以外が県の管轄となり、青木川第 4 調整池の改修が現在実施されています。日光川は下流から整備されていますが、市内はまだ未整備です。

#### ④分野Ⅲ－柱 1 商工観光・雇用就労について

- (商工観光課) ～ 分野Ⅲ－柱 1 商工観光・雇用就労について商工観光課長より説明 ～
- (会長) ただ今の説明について、ご意見等ありますか。
- (委員) 完全失業率の推移や有効求人倍率の推移のグラフは、数値が全国と愛知県のものである。市の数値はないのか。
- (商工観光課) 国のデータを用いて県が作成したグラフを掲載しています。ハローワーク犬山管内のデータはあると思うので、掲載を検討します。
- (委員) 個別目標③の「観光客数」は、基準値が 1,861,613 人 (H27) とあるが、これほどいるのか。

- 予想よりも多い。
- (商工観光課) 県の観光入込客統計によると、フラワーパーク江南の来場者数は 100 万人超、藤まつりの来場者数は 50 万人超となっています。他にも市民まつりや花火大会といったイベントでの来場者数も含まれます。
- (委員) 企業誘致の成功事例はあるのか。
- (商工観光課) 今年度から本格的に取り組んでいますが、誘致実績はありません。
- (委員) 少し前の話だが、京都府綾部市は工業団地を造成し、地元には本社がある京セラの工場を誘致した。小規模でも良いので工業団地を作ってはどうか。
- (商工観光課) 計画的に企業誘致を進めるには工業用地があれば有効だとは思いますが、しかし、本市では市が土地を買って企業に売るのではなく、あくまで開発許可や優遇制度により企業誘致を進めています。すぐには上手くいかないかもしれませんが、安良地区では、企業と地権者との間で話があるなど進展はあります。
- (委員) フラワーパーク江南は 100 万人を超える観光客数である。本来なら観光の起爆剤となるはずだが、あまりなっていない。すいとびあ江南と連携するなど、何か考えて取り組んでほしい。
- (商工観光課) すいとびあ江南の稼働率を上げることも課題のため、連携することは有効だと思います。地域間連携として犬山市からの観光客を引き込めないかとも考えています。交流人口を増やす取り組みとしてイベントも様々な施設と連携していきたいと考えています。
- (委員) 賑わいづくりには内容の充実だけでなく発信力も重要なため、市ホームページへのアクセス数やメディア露出回数を指標に入れてはどうか。
- (商工観光課) 地方創生推進課で、PR 動画やポスターの作成などシティプロモーションについて取り組んでいます。観光とも密接に結びついているため、連携は重要です。
- (事務局) シティプロモーションは地方創生推進課が主体で行っており、別の柱になりますが、市ホームページへのアクセス件数は指標にしています。
- (委員) 市外への知名度を上げていくような施策や、観光協会ホームページへのアクセス数などを指標にしてはどうか。
- (商工観光課) 検討します。
- (委員) 江南駅を降りたとき、江南駅前の時計が止まっている。外国語表記のある案内表示などの整備も必要だ。観光客を呼び込もうと思うなら、せっかく立派な PR 動画を作っても、実際に来た時に魅力に欠ければ意味がない。並行してそういった整備もしていくべき。また、藤まつりには 50 万人来るが、4 月、5 月の期間限定のものである。それ以外の期間で観光客を呼び込めるような場所を設定し、将来を見据えた整備も進めておくべきではないか。
- (商工観光課) 限られた税金を観光行政に多く費やすことは市民の理解が得られないかもしれません。人口減少社会において、あくまで観光行政は交流人口を増やす一つ的手段として、最終的には定住人口増につなげていきたいと考えています。時計や案内表示などの整備については、まちづくり課と連携して行っていきたいと思っています。
- (委員) 高齢者が増えていく中で、歴史ガイドなど観光を通じて活躍できる場所があると良い。織田信長にまつわる歴史資源があり、それについて詳しい人もいるので、せっかくなら協力してもらっても良いのではないか。また、古知野高校には観光科ができたと聞いた。そういったところとの連携やインターネットを通じた観光資源の情報発信に取り組んではどうか。
- (委員) まだまだ発信力が不足している。方法を考えないといけない。
- (商工観光課) 新しく作るのではなく、今ある観光資源のインターネットを通じた PR が重要だと考えています。
- (委員) 観光客を呼び込むために市の知名度を上げる方法はいろいろあると思う。発信力も必要なので市職員や市民が市の特色をもっと積極的に学ぶことが重要である。ギネス登録されるような PR も良いかもしれない。お金が無いなりに考えなければならない。

- (委員) いろいろなアイデアの発信が必要だと思う。そのためには、各所が連携しないと行けないが、そういった機関がない。
- (委員) 指標は大事だが、観光客が来た姿を想像しながらやっていかなければならない。できることからやれば大きな力になると思う。
- (商工観光課) 交流人口を増やすことを目標とし、それを上げるためにどうするかを考えなければなりません。行政だけではなく、民間とも連携して観光行政に取り組んでいきます。
- (委員) 各所で協力する必要がある。市が主導していくことが望ましい。
- (商工観光課) すでに商工会議所や農協との連携も行っており、主導は行政になります。
- (会長) 観光資源はたくさんあると思う。市よりも地元のほうが詳しいこともあるため、地元から率先して情報発信してもらえそうな仕組みづくりが必要。また、市民だけでなく NPO が活躍できる仕組みづくりや他自治体との連携も必要である。協力して観光行政に取り組んでほしい。

### 3 その他

#### 次回会議日程について

- (事務局) 次回第5回分科会会議は1月18日(水)午後3時から消防署3階講堂で開催します。事前に資料を送付しますので、よろしくをお願いします。

### 4 閉会

- (事務局) 長時間に渡りご検討いただきまして、ありがとうございます。第4回市民会議(分科会)を終了します。本日はありがとうございます。

以上